

万博開催期間中の道路交通における モニタリング、分析、予測について

「大阪市道路交通円滑化対策会議」の対象について

対象

- ・本市管理道路

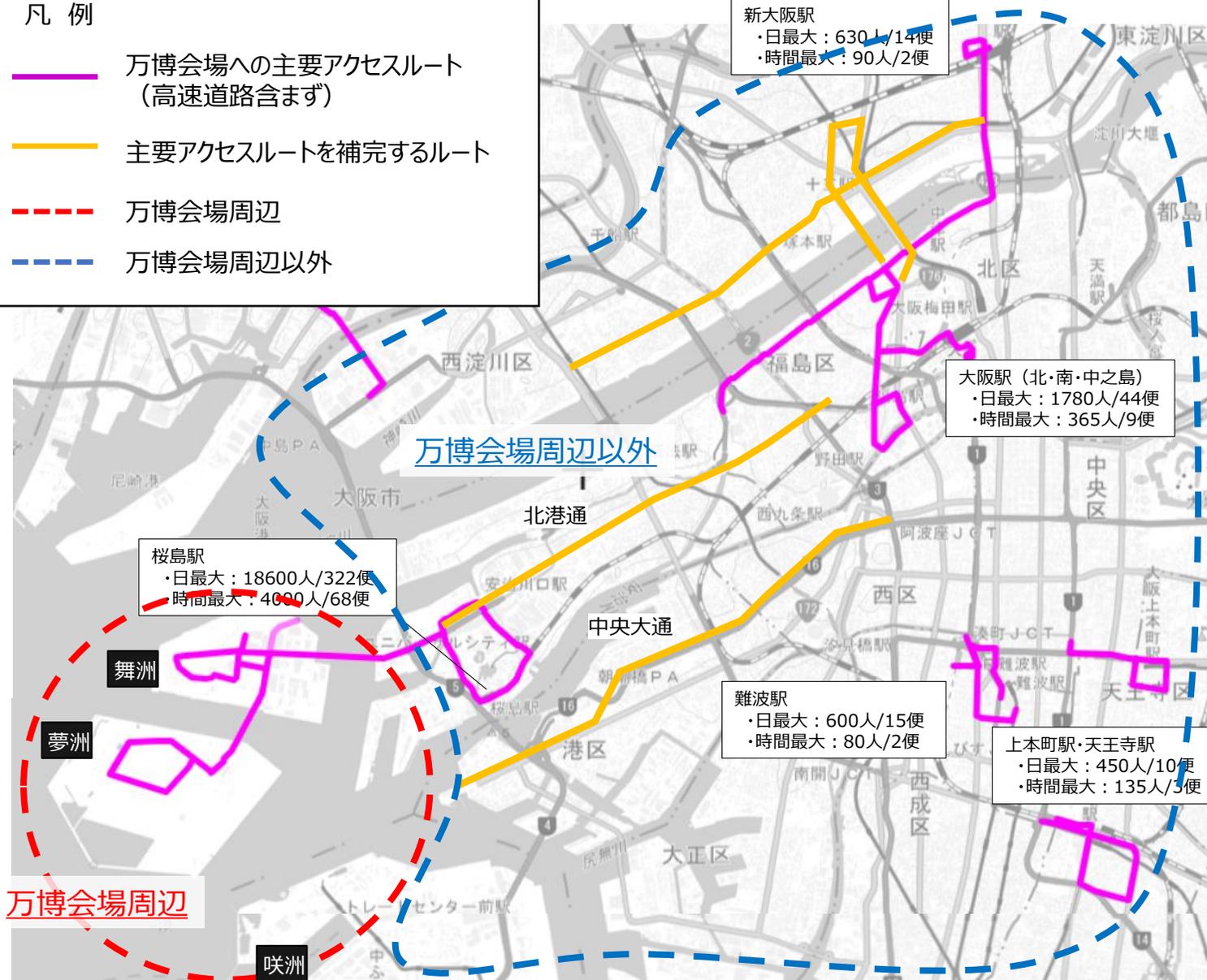
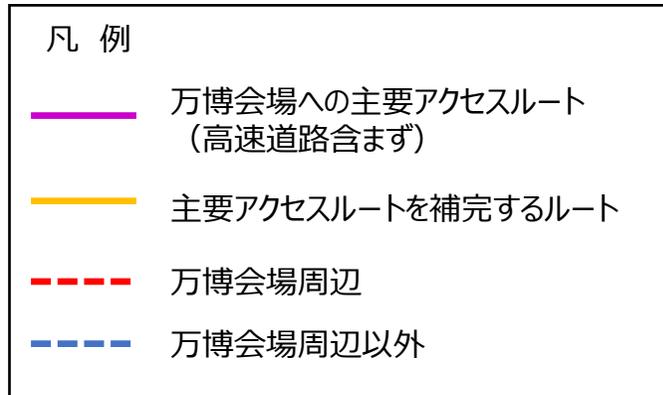
万博会場周辺

- ・万博会場周辺アクセスルート
の交通量のモニタリング・分析
[P2参照]
- ・交通量の予測の実施
[P3,4参照]
- ・追加的対策の実施
[P5参照]

万博会場周辺以外

- ・万博会場への主要アクセ
スルートや主要アクセスルートを
補完するルートの交通状況を
確認 [P10参照]
- ・必要に応じて追加的対策を
実施 [P10参照]

※主要アクセスルートを補完するルート
については、今後の関係先との調整に
より変更する場合があります



※ シャトルバスの運行計画は来場者輸送具体方針（第5版）資料集より引用

万博会場周辺部の対応

万博会場周辺の交通量のモニタリング・分析について

- ◆ AIカメラ、トラフィックカウンターにより、常時交通量のモニタリングを実施し、主要ポイントにおける毎日の交通量を把握
- ◆ 各車両の当日の台数実績の集計や台数の推計から、車両ごとの増減傾向を分析
- ◆ このほか、万博アクセスルートに設置されたライブカメラにより、常時交通状況を把握

万博会場周辺の交通量のモニタリング箇所



※ トラフィックカウンターとは、交通量の観測地点において通過する車両数を自動的に計測するための観測機器

① AIカメラ・トラフィックカウンターによる交通量のモニタリングの実施

- AIカメラ・トラフィックカウンターにより、各ルートの主要ポイントとなる3地点において、交通量のモニタリングを実施（R6年4月より実施）
- 各ルート（高速・北・中央・南）で、交通量の状況を毎日確認

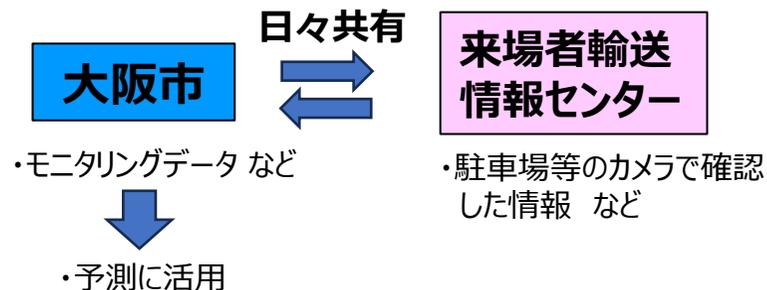
② 各車両の日々の増減傾向の分析

- 物流車両、IR工事車両、一般交通の各車両の当日の台数実績の集計や台数の推計から、車両ごとの増減傾向を把握

③ ライブカメラによる交通状況の把握

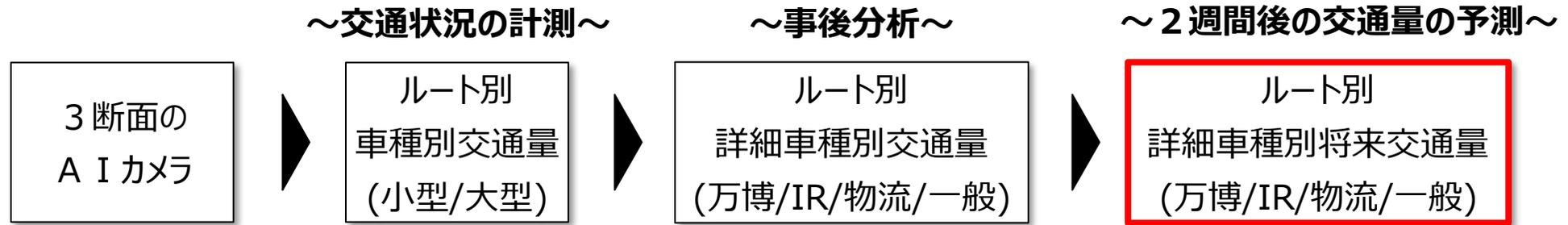
- 360度回転可能なカメラにより、交差点周辺の交通状況を常時把握可能
- 録画機能により、過去の事象を遡って確認することも可能

● 連携内容



交通量の予測の考え方

- ・ 2週間後の将来推計における交通量の整理の考え方



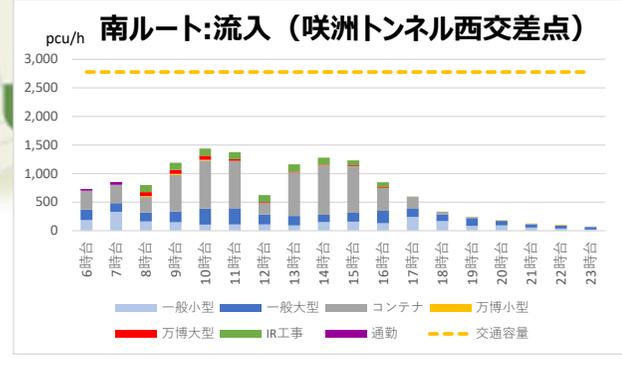
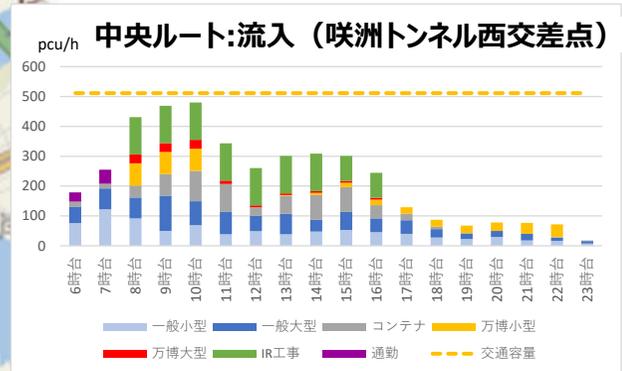
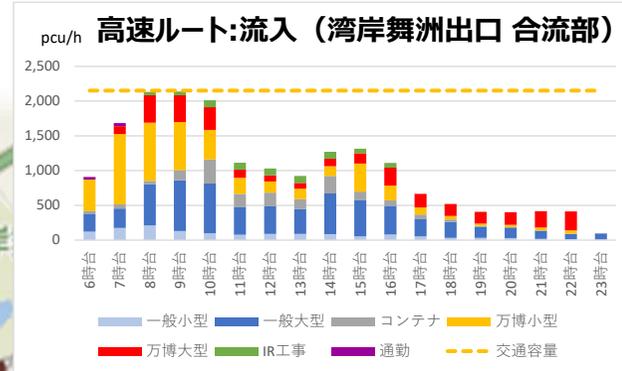
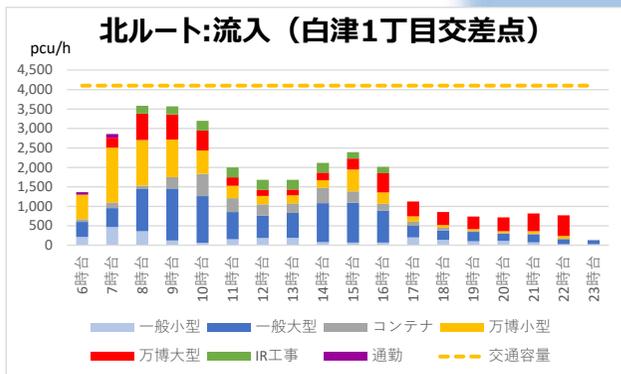
【予測の考え方】

万博	乗用車・貸切バス	: 2週間前の時間帯別予約台数に2週間後の増加係数を乗じて算出 (増加係数は、一定期間のデータを蓄積し算出、それまでは影響検討時の想定台数を使用)
	駅シャトルバス	: 時間帯別運行予定便数
	P&Rシャトルバス	: 時間帯別運行予定便数
	タクシー	: 影響検討時の想定台数を適用
IR	通勤車両	: ルート別時間帯別走行予定台数
	工事車両	: ルート別時間帯別走行予定台数
物流	コンテナ	: 1週間前の夢洲CTゲート通過台数 ×令和6年度の夢洲CTゲート通過実績比
一般	通過交通等	: 1週間前の通行実績※ (交通量の曜日変動などを考慮)

2週間後の交通量の予測結果（日々実施）

➤ 来場・退場別に各地点の2週間後の時間帯別交通量を集計表、グラフで整理

来場方向



※ グラフは、影響検討時のピーク台数で作成

➤ 容量超過箇所があれば、追加的対策を実施

追加的対策の手法

来場者の円滑な輸送を確保するとともに、市民生活や経済活動への影響を最小限に留めることを念頭に、日々の交通状況のモニタリングを行いながら、機動的に万博開催期間中の追加的対策を実施

◆ **追加的対策A**：各事業の工夫により、交通量の状況に関わらず、予め期間を決めて実施する対策

◆ **追加的対策B**：日々の交通状況のモニタリングを行いながら、交通容量を超過する見込みとなった場合に、機動的に実施する対策

※追加的対策のメニュー及び内容については、万博開幕以降も効果的な手法を継続的にブラッシュアップ

<追加的対策の手法>

1) 追加的対策A

対象車両	対策メニュー	内容	効果	実施期間（案）
IR工事車両	休工日の追加	万博来場者が特に多く見込まれる期間について、IR関連工事の休工を増やすなど 今後調整	IR工事車両台数を削減	開幕・GW・お盆・閉幕付近
一般交通	舞洲工場の搬入抑制	ごみ収集車両に対して、混雑時間帯に他の工場に搬入するなど、通行台数を抑制	12～36台/hの削減	全期間

2) 追加的対策B

対象	対策メニュー	内容	効果
物流車両	ターミナルゲートの時間延長	時間外にゲートオープンし、物流車両の来場台数を平準化 (開幕から数週間実施し、効果把握を行う予定)	昼休み前後等の時間帯の来場台数を平準化
	空コンテナシフト	空コンテナの返却場所を夢洲から咲洲等に一部変更	150台/日削減を想定
IR工事車両	通行ルート・時間帯の変更	容量を超過する見込みのルート・時間帯において、IR工事車両の通行ルート・時間帯を変更	IR工事車両台数を削減
一般交通	働きかけTDM*	・更なる協力をお願いについてTDMパートナー企業等にメルマガ配信や情報提供 ・追加的な情報を府市のHP等に掲載	抑制

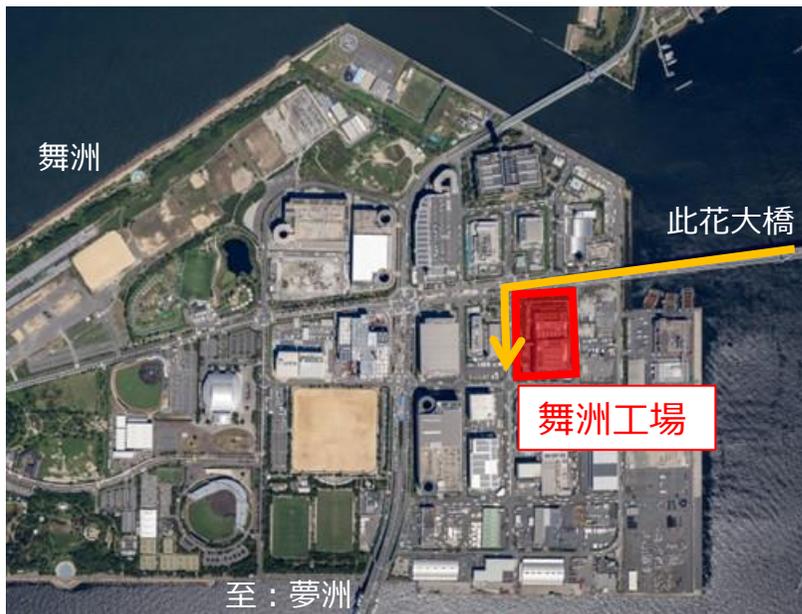
※働きかけTDMとしては、一般車両への対策として、開催中、全期間にわたって、TDMパートナー企業等に対し、夢洲周辺や、阪神高速道路の混雑予測情報等を情報提供。

(参考) 道路の異常時（陥没・倒木・交通事故による道路施設の損傷などによる通行障害）への迅速な対応を実施

◆ 万博会場へのアクセスルート上にある舞洲工場（ごみ焼却工場）について、万博開催期間中のごみ収集車両の搬入を抑制

- ・舞洲工場の点検・修繕を万博閉幕付近の繁忙期に実施
- ・繁忙期以外は、万博来場車両の混雑時間帯（8時・9時・10時台）にごみ収集車両の搬入を他工場に振り分け

●舞洲工場への搬入ルート・台数



通行台数（8時～10時台の台数）

- ・高速湾岸舞洲出口 通行台数：26台/h
- ・一般道 北港通り 通行台数：14台/h

●万博来場者の混雑予測（平日）と対策時期について

※2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議 リフレットより抜粋

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計 上段:日数 下段:割合
会場混雑	●開幕(4/13) GW				お盆 夏休	●敬老の日 ●秋分の日	●閉幕(10/13)	
非常に混雑 約20万人/日以上								8日 (7%)
混雑 約14万人/日以上								51日 (44%)
やや混雑 約14万人/日未満	※1			※2				56日 (49%)
							合計 上段:日数 下段:割合	115日 (100%)

※ 土日祝及びゴールデンウィークとお盆期間に相当する日数を除いた平日のみで整理

舞洲工場の
車両抑制

【繁忙期以外】

・混雑時間帯（8時・9時・10時台）にごみ収集車両の搬入を他工場に振り分けることにより、3～4割削減

【繁忙期】

・舞洲工場の点検・修繕期間を繁忙期に変更（概ね搬入車両をなくす）

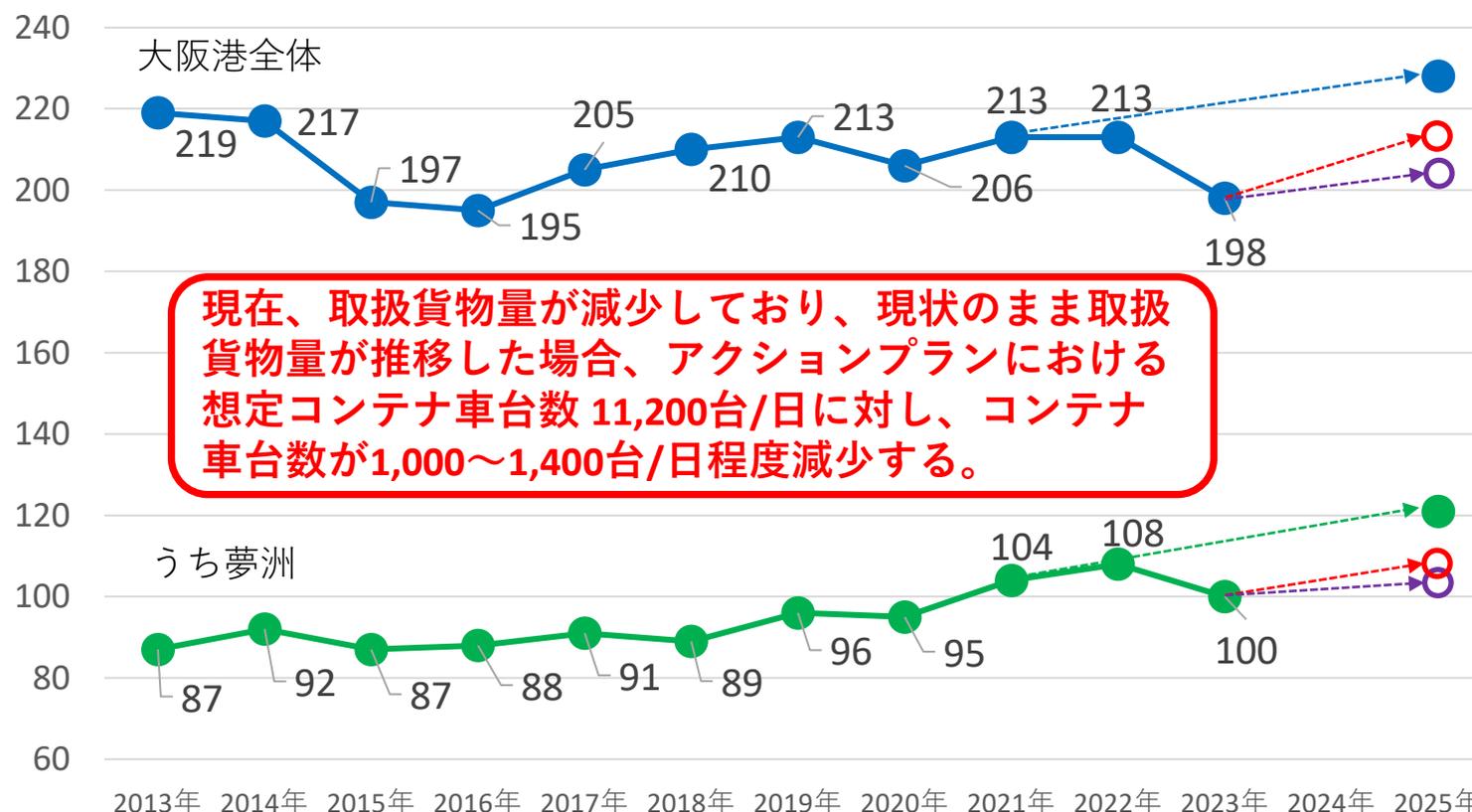
■2023年実績を考慮した万博時の取扱貨物量およびコンテナ車台数の推計値

内 訳	2023年時点 万博来場者輸送具体方針設定値	2024年時点 ①213万TEUに回復と想定	2024年時点 ②年平均伸び率より算出
大阪港取扱貨物量 (2025年)	228万TEU/年	213万TEU/年 (▲15万TEU/年)	204万TEU/年 (▲24万TEU/年)
夢洲流出入コンテナ車台数 (2025年) (年間最大週の日平均)	11,200台/日	10,200台/日 (▲1,000台/日)	9,800台/日 (▲1,400台/日)

(2024年1～12月の取扱貨物量の状況は、昨年同期比102%)

(単位：万TEU)

大阪港の外貿コンテナ取扱個数



現在、取扱貨物量が減少しており、現状のまま取扱貨物量が推移した場合、アクションプランにおける想定コンテナ車台数 11,200台/日に対し、コンテナ車台数が1,000～1,400台/日程度減少する。

具体方針設定値 228万TEU
※2016～2021年の年平均伸び率を乗じて算出 (3.8万TEU/年の増加)

推計値① 213万TEU
※2022年実績まで回復 (7.5万TEU/年の増加)

推計値② 204万TEU
※2016～2022年の年平均伸び率を乗じて算出 (3万TEU/年の増加)

具体方針設定値 121万TEU
※2016～2021年の年平均伸び率を乗じて算出 (4.3万TEU/年の増加)

推計値① 108万TEU
※2022年実績まで回復 (4万TEU/年の増加)

推計値② 103万TEU
※2016～2022年の年平均伸び率を乗じて算出 (1.5万TEU/年の増加)

- ・万博開催直後の数週間において、ターミナル時間延長を実施する見込みであり、万博交通及び物流交通に対する対策効果について確認するとともに、万博開催期間中の対策実施の判断にも寄与する。
- ・上記期間以降の実施時期については、交通シミュレーションで見込んでいる物流車両約11,200台/日を超える場合を原則とする。

【イメージ図】

【ゲートオープン時間】（通常）

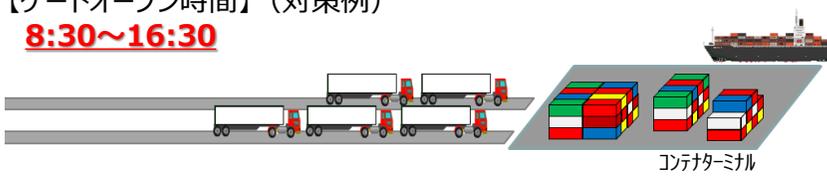
8:30~11:30, 13:00~16:30



・ゲートオープン時間を延長することにより、ゲート前混雑を緩和

【ゲートオープン時間】（対策例）

8:30~16:30



【実施効果】

昼休み処理台数と13時時点待機車両台数

（夢洲コンテナターミナル）



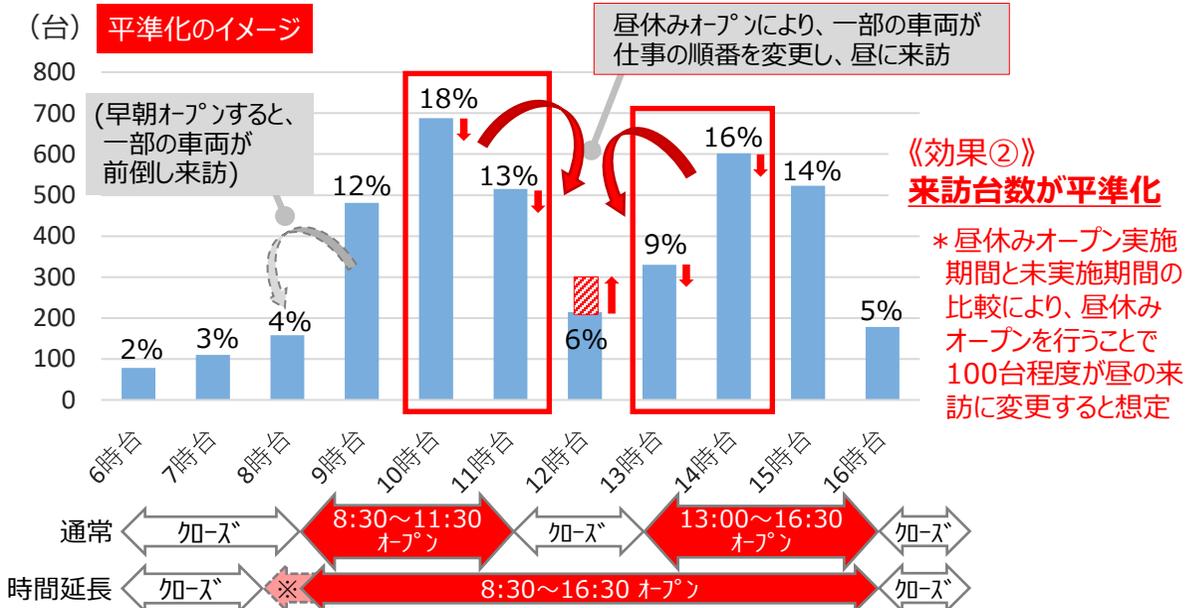
R5.5.8~5.12
(日平均)

■ 昼休みのゲート処理台数

■ 13時時点の待機車両台数
(待機車両は待機場場に引き込み)

時間帯別 コンテナ車両来訪台数

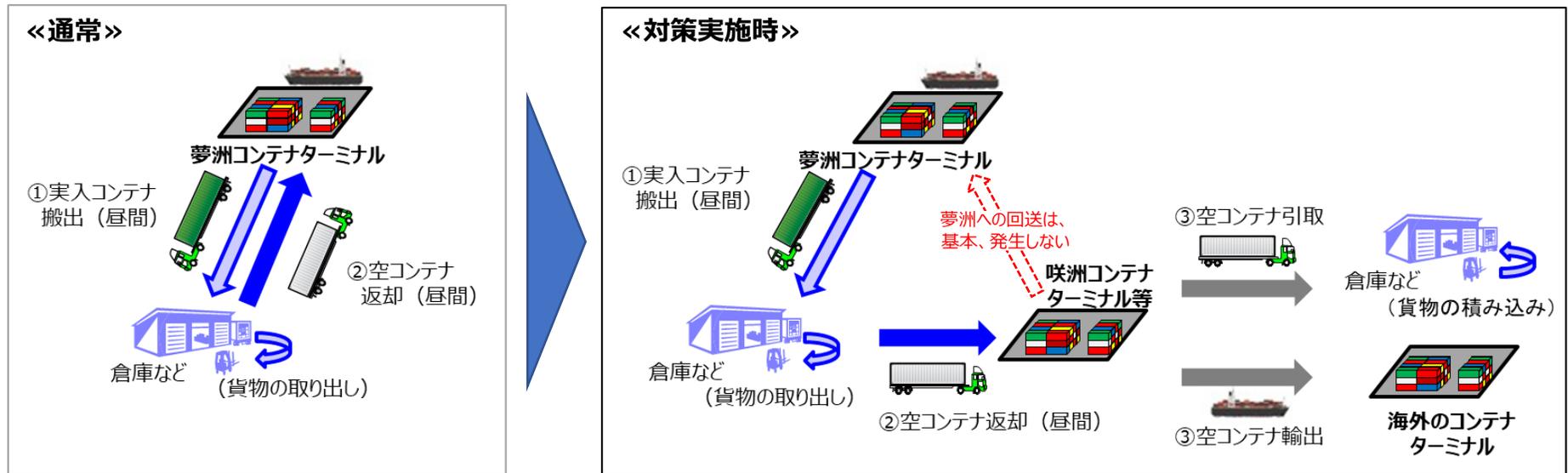
(R2.9.29調査結果(夢洲コンテナターミナル) (混雑期の台数に補正))



※早朝のゲートオープンを行うと8時台(万博開催期間中のピーク時間)の交通量の増加が懸念されることから、早朝の実施については要検討。

- ・空コンテナ返却場所一時移転については、この間、夢洲コンテナターミナルへ返却すべき空コンテナを咲洲等へ返却場所をシフトさせ、万博交通への影響の少ない夜間等に夢洲コンテナターミナルへ空コンテナを回送するよう港湾関係者と調整を進めてきたが、調整の結果、夢洲コンテナターミナルへ空コンテナを基本回送しない手法へ変更を行った。
- ・博覧会協会による交通需要予測等も踏まえ、空コンテナ返却場所一時移転について、万博開催期間中において、原則、交通シミュレーションで見込んでいる物流車両約11,200台/日を超える場合に実施する。

【イメージ図】



【実施効果】

当初の手法（150台/日）と同程度の効果を見込む

万博会場周辺以外の対応

万博会場周辺以外の交通状況の確認について

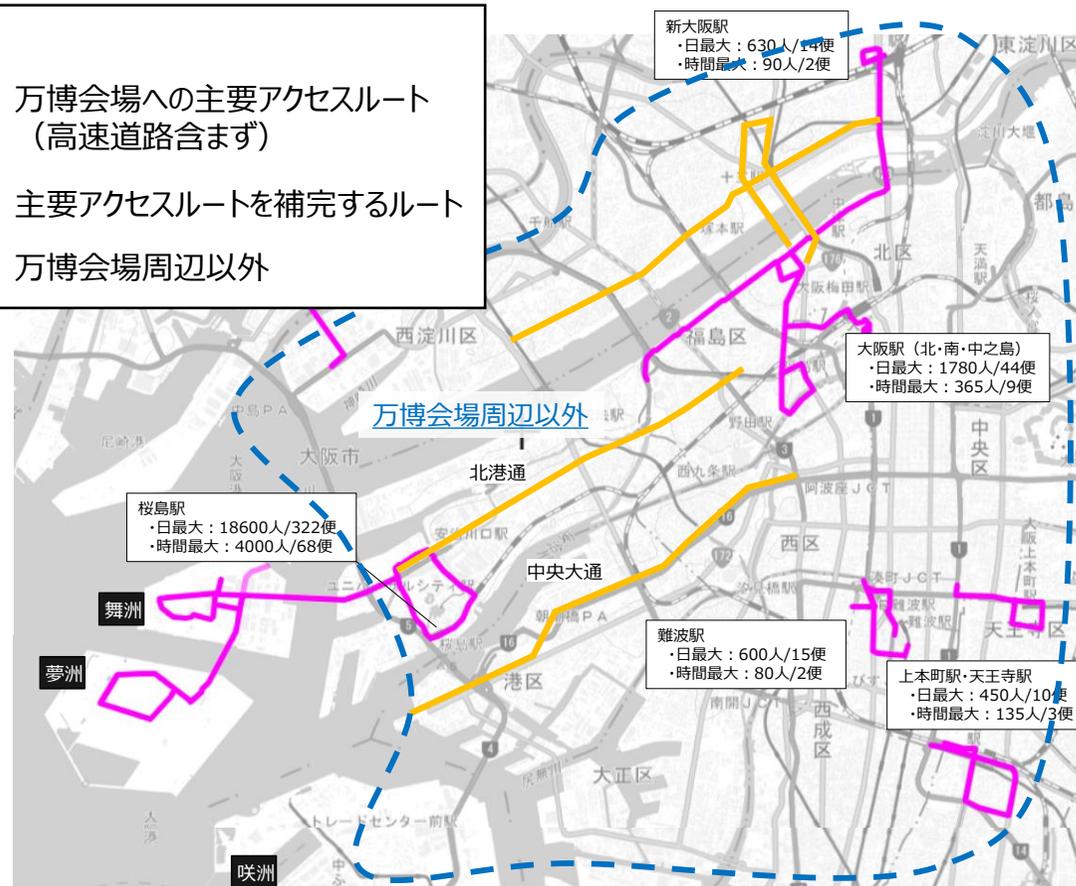
- ◆万博会場への主要アクセスルート（一般道）や主要アクセスルートを補完するルートにおいて、日常の巡視を強化し、交通状況を確認
- ◆このほか、JARTICから渋滞情報データを入力し、万博開催前（1年前の同時期）のデータや直近のデータと比較し、曜日や時間帯による交通状況の変動の傾向を把握
- ◆万博開幕後も渋滞情報データの入手を継続し、万博閉幕付近の繁忙期に向けて変動の傾向を分析
- ◆交通状況を確認しながら、必要に応じて追加的対策を実施

万博会場周辺以外の
交通状況の確認箇所

凡例

- 万博会場への主要アクセスルート（高速道路含まず）
- 主要アクセスルートを補完するルート
- - - 万博会場周辺以外

JARTIC:公益財団法人 日本道路交通情報センター



※主要アクセスルートを補完するルートについては、今後の関係先との調整により変更する場合があります

參考資料

万博会場周辺のインフラ整備について

舞洲東高架橋(令和6年12月完成)
高架化による輸送力強化のための橋梁
平面道路の常時左折可を令和6年2月に実施

舞洲幹線道路(令和4年7月完成)
4車線を6車線に拡幅

此花大橋(令和4年10月完成)
4車線を6車線に拡幅

係留施設等(令和6年12月完成)
小型旅客船用の海上アクセス確保

阪神高速道路交通対策(令和6年6月完成)
湾岸舞洲出口の合流部の2車線化
天保山JCT渡り線の合流部の2車線化

IR施設整備

夢舞大橋(令和4年8月完成)
4車線を6車線に拡幅

観光外周道路(令和6年12月完成)
万博敷地等へのアクセスに必要となる道路

夢洲北高架橋(令和6年8月1日～暫定利用開始)
夢洲南高架橋(令和6年12月2日～暫定利用開始)
物流と観光の動線分離のための橋梁

日本国際博覧会会場整備

令和4年10月より基盤整備・管路(給水・汚水・電気など)工事開始

鉄道(令和7年1月19日開業)
北港テクノポート線の夢洲駅までのインフラ部整備

咲洲トンネル西交差点外改良(令和6年7月完成)
信号秒数の調整、車線幅員の拡幅等

